

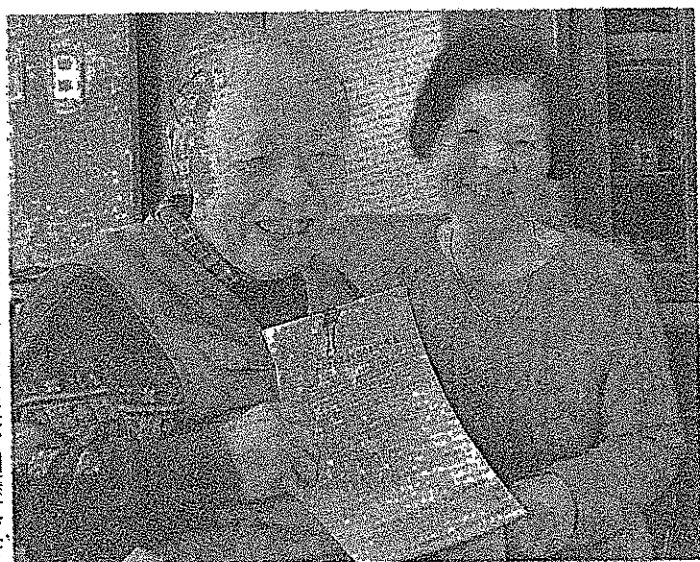
車いすじもじもるんじん

歴史家の
加藤文三さん

「署名は楽しい。音楽を聴くことなら誰でも生かいです」——。こりほほ笑むのは『学問の花ひらいて』などの著者として知られる歴史家で、元中学校社会科教師の加藤文三さん（85）です。（桑野白馬）

広げよう
2000万署名

手紙を添えて教え子に



署名用紙を手にはほほ笑む加藤文三さんと妻の好子さん。千葉県市川区

「常に行動」

千葉市に住む加藤さんは昨年、骨折し、車いすでの生活を余儀なくされました。「自分には何ができるのか考え、常に行動したい」という気持ちから、妻

の好子さん（76）とともに、家を訪れる宅配の人やヘルパーに、戦争法廃止を求めると2000万署名を呼びかけ、署名用紙に手紙を添えて教え子たちに郵送。8日までに261人分を集めています。

加藤さんの日記には、教え子から返信された手紙が貼ってあります。

「わたしにも2人の孫がいます。この先戦争のことを考えると恐ろしくてたまらない」「先生の情熱と信念が健在であることを感じました」……。安倍政権への不安や、加藤さんの気持ちに突き動かされたという文面が並びます。

「喜んで署名してくれたのが伝わり、うれしいです。将来が不安だけど何をしたいかわからない人たちに勇気づけられたと思います」

加藤さんの手紙には、「あなたと共に署名運動に参加しよう」という呼びかけの言葉が書いてあります。「一人でも多くの人に署名を頼むことが大事」と真剣な表情で話し、「それ

以上に、署名の担い手を増やし、一緒に行動することが大切です」と好子さんと声をそろえました。

戦争の恐怖

若者に対して「好きなことを諦めないで。生きがいを持つことが大事です」とエールを送ります。

加藤さんは5人兄弟の4番目の生まれ。2番目の兄はパイロットでしたが19歳で戦死しました。好子さんは降り注ぐ焼夷（しょうり）弾のなか、母親の引くりヤカーにつかまって逃げた恐怖を忘れられないといいます。

「戦争になれば好きなことも何もできなくなってしまうのです。だから共に署名運動に参加しましょう」と力強く語りました。

安倍政権について尋ねると「時間の無駄なので話したくないですね」といって、車いすにつけた「アベ政治を許さない」のステッカーを見せてくれました。